

■米国：PG&E 社、山火事の未然防止を目的とした大規模計画停電を実施

カリフォルニア州電力最大手のパシフィック・ガス・アンド・エレクトリック社（PG&E、本社：同州サンフランシスコ）は 2019 年 10 月 9 日、送電線の樹木接触による発火など電力設備に起因する山火事の未然防止を目的とした大規模計画停電（PSPS：Public Safety Power Shutoff）を開始したと発表した。今回の PSPS は 3 段階で計画されており、最終的には約 80 万世帯に影響が及ぶ見通しである。PSPS は、山火事を引き起こす危険性が高い場合の最終手段として送電を止めることが、州規制当局から承認を得ているものであり、2019 年 6 月にも 2 度実施された。2019 年 5 月に同州政府は、2018 年 11 月に発生した大規模山火事（死者 85 名）の原因は、同社の送電設備であると結論付けた。同社は 2017 年と 2018 年の山火事に伴う訴訟を数多く抱え、損害賠償額が 300 億ドル（約 3 兆円）以上となる見通しであることから、2019 年 1 月に連邦破産法第 11 章（日本でいう「民事再生法」に相当）の適用申請を行った。